

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	憲 法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>憲法は「統治機構」と「人権」の2つの部分から成り、相互に密接に結びついている。憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。</p>				
授業概要	<p>日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政権と国務請求権 9. 統治機構の基本原理 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価:国家の統治機構・三大基本原理(「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」)の構及び日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解する科目試験の結果により判定し評価する</p>				
使用テキスト等	<p>「憲法」(配本テキスト)</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>テキストに示されている資料の他、「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	情報リテラシーと処理技術	授業区分	講義	単位数	2		
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。						
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。						
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会 2. コンピュータの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. Windowsの基本操作 9. 文書作成の基本①（書式設定） 10. 文書作成の基本②（図形・表） 11. 文書作成の基本③（ページ設定） 12. 表計算の基本①（書式設定） 13. 表計算の基本②（計算式・関数） 14. 表計算の基本③（グラフ機能） 15. プレゼンテーションの基本 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会 2. コンピュータの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 	<ol style="list-style-type: none"> 8. Windowsの基本操作 9. 文書作成の基本①（書式設定） 10. 文書作成の基本②（図形・表） 11. 文書作成の基本③（ページ設定） 12. 表計算の基本①（書式設定） 13. 表計算の基本②（計算式・関数） 14. 表計算の基本③（グラフ機能） 15. プレゼンテーションの基本
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会 2. コンピュータの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 	<ol style="list-style-type: none"> 8. Windowsの基本操作 9. 文書作成の基本①（書式設定） 10. 文書作成の基本②（図形・表） 11. 文書作成の基本③（ページ設定） 12. 表計算の基本①（書式設定） 13. 表計算の基本②（計算式・関数） 14. 表計算の基本③（グラフ機能） 15. プレゼンテーションの基本 						
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）</p> <p>成績評価：PC 実技や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）</p> <p style="text-align: center;">※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う</p>						
使用テキスト等	「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）						
実務経験がある教員による授業科目	<p>システムエンジニア経験（5年）、工学士、第1種情報処理技術者、システムアドミニストレータ 大学非常勤講師（3年）（専門学校常勤講師（7年）</p> <p>※上記の経歴を持つ教員による授業で、PCの基礎知識と技能を身に付ける。</p>						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こども学概論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	人はみな「こども」として生きる時期を経て大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。そのような私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」のあり方や「こども」のとらえられ方に注目し、養育者や保育者のあり方についても考察を加える。				
授業概要	こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史的変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界、見る・感じる 6. こどもの障害・病理 7. 家族のあり方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウンセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「こども学概論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版) (フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	英語コミュニケーション	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	<p>今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>レポート:平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> <p>科目試験:英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p>				
授業概要	<p>本テキストは3つの Chapter からなっている。Chapter1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまず Chapter1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人は Chapter1にはあまり時間をかけずに Chapter2に進み、英語の理解を深める。Chapter3では、保育の現場でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p>				
授業計画	<p>Chapter1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法(動詞、形容詞・副詞) 2. 英語の文法(比較、代名詞、疑問詞) 3. 英語の文法(進行形、完了形、受動態) <p>Chapter2</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 英語の基礎構文(5文型) 5. 英語の基礎構文(修飾語句) 6. 英語の基礎構文(接続詞、仮定法) <p>Chapter3</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「英語コミュニケーション」(配本テキスト)</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	健康科学	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	<p>健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の三本柱とストレス対処について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。</p> <p>本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。</p> <p>レポート:健康寿命とは、どのようなものか、自分の言葉で説明できるようになる。</p> <p>科目試験:運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。</p>				
授業概要	健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本 21 「健康日本 21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	「健康科学」(配本テキスト)				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	スポーツ(実技)	授業区分	実技	単位数	1
授業目標	<p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的のスポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の向上を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。</p> <p>スクーリング: バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に向上し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。</p>				
授業概要	<p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の向上を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン①基本練習 7. バドミントン②シングルのゲーム 8. バドミントン③ダブルスのゲーム 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ(ティーボールなど) 15. ウォーキングとその効果について 				
成績評価基準	<p>成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	<p>「健康科学」(配本テキスト)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育原理	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。																				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保護者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追究する。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 保育の理念と概念</td> <td style="width: 50%;">9 保育所保育に関する基本原則</td> </tr> <tr> <td>2 子どもの最善の利益と保育</td> <td>10 保育における養護</td> </tr> <tr> <td>3 子ども家庭福祉と保育</td> <td>11 保育の目標・内容</td> </tr> <tr> <td>4 保育の社会的役割と責任</td> <td>12 保育の環境・方法</td> </tr> <tr> <td>5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令</td> <td>13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環</td> </tr> <tr> <td>6 子ども・子育て支援新制度</td> <td>14 日本・諸外国の保育の思想と歴史</td> </tr> <tr> <td>7 保育の実施体系</td> <td>15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>8 保育所保育指針</td> <td></td> </tr> </table>					1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則	2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護	3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容	4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法	5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環	6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史	7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題	8 保育所保育指針	
1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則																				
2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護																				
3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容																				
4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法																				
5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環																				
6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史																				
7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題																				
8 保育所保育指針																					
成績評価基準	成績評価：出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。せいせき																				
使用テキスト等	「保育原理」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所保育士(24年)認定こども園園長(5年 現職) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、保育の基礎的知識や歴史等、子ども、保護者、保育者の各視点から保育をとらえる授業を行う。																				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育原理	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p>				
授業概要	<p>教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践 3 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践 4 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 6 子どもの権利 7 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9 世界における教育の歴史的変遷 10日本における教育の歴史的変遷 11公教育制度、義務教育制度 12教師という仕事、教授法 13教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15教育における今日的課題③学校外との連携 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>				
使用テキスト等	<p>「教育原理」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こども家庭福祉	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。																				
授業概要	子ども家庭福祉の意義と歴史、権利擁護、それに係る法則や実施体系等について理解する。また、子ども家庭福祉の現状と課題について、少子化対策や虐待防止、貧困家庭や外国語の子どもや家庭への対応等の視点で理解する。																				
業 計 画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 子ども家庭福祉の理念と概念</td> <td style="width: 50%;">9 児童福祉施設等・子ども家庭福祉の専門職、実施者</td> </tr> <tr> <td>2 子ども家庭福祉の歴史の変遷</td> <td>10 少子化と地域子育て支援・母子保健と児童健全育成</td> </tr> <tr> <td>3 現代社会と子ども家庭福祉</td> <td>11 多様な保育ニーズへの対応・児童虐待・ドメスティックバイオレンス</td> </tr> <tr> <td>4 子どもの人権擁護の歴史の変遷</td> <td>12 社会的養護・障害のある子ども・少年非行などへの対応</td> </tr> <tr> <td>5 児童の権利に関する条約</td> <td>13 諸外国の動向・貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への支援</td> </tr> <tr> <td>6 子どもの人権擁護と現代社会における課題</td> <td>14 子ども家庭福祉の動向と展望</td> </tr> <tr> <td>7 子ども家庭福祉の制度と法体系</td> <td>15 保育・教育・療育・保健・医療との連携ネットワーク</td> </tr> <tr> <td>8 子ども家庭福祉行財政と実施機関</td> <td></td> </tr> </table>					1 子ども家庭福祉の理念と概念	9 児童福祉施設等・子ども家庭福祉の専門職、実施者	2 子ども家庭福祉の歴史の変遷	10 少子化と地域子育て支援・母子保健と児童健全育成	3 現代社会と子ども家庭福祉	11 多様な保育ニーズへの対応・児童虐待・ドメスティックバイオレンス	4 子どもの人権擁護の歴史の変遷	12 社会的養護・障害のある子ども・少年非行などへの対応	5 児童の権利に関する条約	13 諸外国の動向・貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への支援	6 子どもの人権擁護と現代社会における課題	14 子ども家庭福祉の動向と展望	7 子ども家庭福祉の制度と法体系	15 保育・教育・療育・保健・医療との連携ネットワーク	8 子ども家庭福祉行財政と実施機関	
1 子ども家庭福祉の理念と概念	9 児童福祉施設等・子ども家庭福祉の専門職、実施者																				
2 子ども家庭福祉の歴史の変遷	10 少子化と地域子育て支援・母子保健と児童健全育成																				
3 現代社会と子ども家庭福祉	11 多様な保育ニーズへの対応・児童虐待・ドメスティックバイオレンス																				
4 子どもの人権擁護の歴史の変遷	12 社会的養護・障害のある子ども・少年非行などへの対応																				
5 児童の権利に関する条約	13 諸外国の動向・貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への支援																				
6 子どもの人権擁護と現代社会における課題	14 子ども家庭福祉の動向と展望																				
7 子ども家庭福祉の制度と法体系	15 保育・教育・療育・保健・医療との連携ネットワーク																				
8 子ども家庭福祉行財政と実施機関																					
成績評価 基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。																				
使用テキスト等	「こども家庭福祉」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年) の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、子ども家庭福祉の歴史と現状、その対応についての授業を行う。																				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会福祉論	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。																				
授業概要	保護者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学びを深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解していく。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 社会福祉の理念と概念</td> <td style="width: 50%;">9 相談援助の理論、相談援助の意義と機能</td> </tr> <tr> <td>2 社会福祉の歴史の変遷</td> <td>10 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術</td> </tr> <tr> <td>3 子ども家庭支援と社会福祉</td> <td>11 情報提供と第三者評価</td> </tr> <tr> <td>4 社会福祉の制度と法体系</td> <td>12 利用者の権利擁護と苦情解決</td> </tr> <tr> <td>5 社会福祉行財政と実施機関</td> <td>13 少子高齢化社会における子育て支援</td> </tr> <tr> <td>6 社会福祉施設</td> <td>共生社会の実現と障害者施策</td> </tr> <tr> <td>7 社会福祉の専門職</td> <td>14 在宅福祉の地域福祉の推進、諸外国の動向</td> </tr> <tr> <td>8 社会保障及び関連制度の概要</td> <td></td> </tr> </table>					1 社会福祉の理念と概念	9 相談援助の理論、相談援助の意義と機能	2 社会福祉の歴史の変遷	10 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術	3 子ども家庭支援と社会福祉	11 情報提供と第三者評価	4 社会福祉の制度と法体系	12 利用者の権利擁護と苦情解決	5 社会福祉行財政と実施機関	13 少子高齢化社会における子育て支援	6 社会福祉施設	共生社会の実現と障害者施策	7 社会福祉の専門職	14 在宅福祉の地域福祉の推進、諸外国の動向	8 社会保障及び関連制度の概要	
1 社会福祉の理念と概念	9 相談援助の理論、相談援助の意義と機能																				
2 社会福祉の歴史の変遷	10 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術																				
3 子ども家庭支援と社会福祉	11 情報提供と第三者評価																				
4 社会福祉の制度と法体系	12 利用者の権利擁護と苦情解決																				
5 社会福祉行財政と実施機関	13 少子高齢化社会における子育て支援																				
6 社会福祉施設	共生社会の実現と障害者施策																				
7 社会福祉の専門職	14 在宅福祉の地域福祉の推進、諸外国の動向																				
8 社会保障及び関連制度の概要																					
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。																				
使用テキスト等	「社会福祉論」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年)、乳児院(21年)の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員による授業で、社会福祉の制度や体系、相談援助等について学習を行う。																				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こども家庭支援論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. 子ども家庭福祉の諸相 15. 要保護児童とその家庭に対する支援 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	<p>「こども家庭支援論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会的養護 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
授業概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷や社会的養護に係る法制、仕組、実施体系について理解する。 また、家庭養護や施設養護の対象や専門職、施設等の現状や課題を理解する。				
	1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護の仕組みと実施体系 8 社会的養護の対象	9 家庭養護と実施養護 10 社会的養護に関わる専門職 11 社会的養護に関わる社会的状況 12 施設等の運営管理 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護と地域福祉 15 今後の課題(施設養護のあり方)			
成績評価 基準	出席状況、授業態度、試験、レポート内容等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「社会的養護 I」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	教職論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、教職(保育)は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。				
授業概要	本授業は望ましい教職者(保育者)とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職(保育)の意義・定義・教職(保育)者とは何か 2. 教職(保育)者に求められる資質・能力 3. 教員(保育者)養成の歴史 4. 教職(保育)者の資質と役割 5. 指導計画(保育のねらい・内容) 6. 教職(保育)者の仕事・義務・研修 7. 教職(保育)者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置付け 9. 教職者の任用とサービス 10. 教育(保育)現場におけるこどもとの関わり(あそび・環境) 11. 教育(保育)現場における家庭との連携・支援、地域との連携 12. 教職(保育)観の変遷と教員(保育者)の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム) 14. 今日的な教育課題に対応するために(「チーム学校」等) 15. よい教職者(保育者)になるために(教育実習への心構え) 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	<p>「教職論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年)</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、教職(保育)者に求められる資質能力、制度的な位置づけ、教育(保育)現場での役割等について学ぶ。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	発達心理学	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。																				
授業概要	子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、保育の基本となる子どもへの理解を深める。また、乳幼児の学びの過程や特性に係る基礎的な知識を修得し、保育における人との関わりや体験、環境の意義を理解する。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 子どもの発達を理解することの意義</td> <td style="width: 50%;">9 人との相互的にかかわりと子どもの発達</td> </tr> <tr> <td>2 子どもの発達と環境</td> <td>10 発達課題と発達援助</td> </tr> <tr> <td>3 発達理論と子ども観・保育観</td> <td>11 乳幼児期の学びに係る理論</td> </tr> <tr> <td>4 社会情動的発達(乳児期～幼児前期)</td> <td>12 学びの過程と特性(乳児期～幼児前期)</td> </tr> <tr> <td>5 社会情動的発達(幼児後期～児童期)</td> <td>13 学びの過程と特性(幼児後期～児童期)</td> </tr> <tr> <td>6 身体機能と運動機能の発達</td> <td>14 乳幼児期の学びを支える保育</td> </tr> <tr> <td>7 認知の発達</td> <td>15 発達障害の理解と対応</td> </tr> <tr> <td>8 言語の発達</td> <td></td> </tr> </table>					1 子どもの発達を理解することの意義	9 人との相互的にかかわりと子どもの発達	2 子どもの発達と環境	10 発達課題と発達援助	3 発達理論と子ども観・保育観	11 乳幼児期の学びに係る理論	4 社会情動的発達(乳児期～幼児前期)	12 学びの過程と特性(乳児期～幼児前期)	5 社会情動的発達(幼児後期～児童期)	13 学びの過程と特性(幼児後期～児童期)	6 身体機能と運動機能の発達	14 乳幼児期の学びを支える保育	7 認知の発達	15 発達障害の理解と対応	8 言語の発達	
1 子どもの発達を理解することの意義	9 人との相互的にかかわりと子どもの発達																				
2 子どもの発達と環境	10 発達課題と発達援助																				
3 発達理論と子ども観・保育観	11 乳幼児期の学びに係る理論																				
4 社会情動的発達(乳児期～幼児前期)	12 学びの過程と特性(乳児期～幼児前期)																				
5 社会情動的発達(幼児後期～児童期)	13 学びの過程と特性(幼児後期～児童期)																				
6 身体機能と運動機能の発達	14 乳幼児期の学びを支える保育																				
7 認知の発達	15 発達障害の理解と対応																				
8 言語の発達																					
成績評価基準	出席状況・授業態度・レポート課題の内容・科目試験等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価を用い行う)																				
使用テキスト等	「発達心理学」(配本テキスト)																				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの発達と家庭支援	授業区分	講義	単位数	2		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 						
授業概要	<p>生涯発達に関する心理学の基礎を習得するとともに、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等を発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身に付ける。併せて子育て家庭に係る課題を理解する。</p>						
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期から青年期にかけての発達 3 成人期・老年期における発達 4 家族・家庭の理解 5 家族・家庭の意義と機能 6 親子関係・家族関係の理解 7 子育ての経験と親としての育ち 8 子育て家庭に関する現状と課題 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9 子育てを取り巻く社会的状況 10 ライフコースと仕事・子育て 11 多様な家庭とその理解 12 特別な配慮を要する家庭 13 子どもの精神保健とその課題 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期から青年期にかけての発達 3 成人期・老年期における発達 4 家族・家庭の理解 5 家族・家庭の意義と機能 6 親子関係・家族関係の理解 7 子育ての経験と親としての育ち 8 子育て家庭に関する現状と課題 	<ol style="list-style-type: none"> 9 子育てを取り巻く社会的状況 10 ライフコースと仕事・子育て 11 多様な家庭とその理解 12 特別な配慮を要する家庭 13 子どもの精神保健とその課題 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題
<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期から青年期にかけての発達 3 成人期・老年期における発達 4 家族・家庭の理解 5 家族・家庭の意義と機能 6 親子関係・家族関係の理解 7 子育ての経験と親としての育ち 8 子育て家庭に関する現状と課題 	<ol style="list-style-type: none"> 9 子育てを取り巻く社会的状況 10 ライフコースと仕事・子育て 11 多様な家庭とその理解 12 特別な配慮を要する家庭 13 子どもの精神保健とその課題 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題 						
成績評価基準	<p>授業態度・出席状況・レポート課題の内容・科目試験等で、総合評価とする。 (評価はルーブリック評価を用いる)</p>						
使用テキスト等	<p>「こどもの発達と家庭支援」(配本テキスト)</p>						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの理解と援助	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。				
授業概要	授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業計画	1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握① (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握② (1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 3. 子どもを理解する視点① (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち 4. 子どもを理解する視点② (1) 葛藤やつまずき (2) 保育の環境の理解と構成 (3) 環境の変化や移行 5. 子どもを理解する方法① (1) 観察 (2) 記録 6. 子どもを理解する方法② (1) 省察・評価 (2) 職員間の対話 (3) 保護者との情報の共有 7. 子どもの理解に基づく発達援助① (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 8. 子どもの理解に基づく発達援助② (1) 発達の連続性と就学への支援				
成績評価基準	受講態度やレポート課題提出状況・単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業計画表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①:症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②:感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの食と栄養	授業区分	演習講義	単位数	2		
授業目標	<p>ヒトが人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解し、それをどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということ理解し考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。 						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。 3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。 						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解 3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 4. こどもの食生活の現状と課題についての理解 5. 食育実践のための基礎知識 6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 7. 特別な配慮を要するこどもへの対応 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. 栄養の基本概念と栄養素についての理解 9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解 3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 4. こどもの食生活の現状と課題についての理解 5. 食育実践のための基礎知識 6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 7. 特別な配慮を要するこどもへの対応 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 栄養の基本概念と栄養素についての理解 9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援
<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解 3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 4. こどもの食生活の現状と課題についての理解 5. 食育実践のための基礎知識 6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 7. 特別な配慮を要するこどもへの対応 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 栄養の基本概念と栄養素についての理解 9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援 						
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価: 受講態度や科目試験の結果により総合的に判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>						
使用テキスト等	<p>「こどもの食と栄養」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						
実務経験がある教員による授業科目	<p>保育所(保育士・園長 通算15年)、病院・乳児院(栄養士通算29年)の勤務歴。</p> <p>保育士6年、</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義・実践、食育を行うための基礎知識や食育を行うための地域社会との関わり等について学ぶ。</p>						

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育課程論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。				
授業概要	幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。				
授業計画	1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上) 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 信頼される園づくりと学校評議員制度				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「教育課程論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育内容総論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の全体的構造 <ol style="list-style-type: none"> ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ②領域の考え方と乳児保育の領域 2. 保育内容の歴史的変遷 <ol style="list-style-type: none"> ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題 3. 養護と教育の一体的展開 <ol style="list-style-type: none"> ①養護的なかかわりと教育的なかかわり 4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携 5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 <ol style="list-style-type: none"> ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育 6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮 7. 保育の評価と保育の記録 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解 8. 保育内容の現代的課題について <ol style="list-style-type: none"> ①子育て支援 ②多文化共生保育 				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育内容総論」(最新版)(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「健康」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。</p> <p>乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。</p>				
授業概要	<p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。</p>				
授業計画	<p>1. 領域「健康」の意味(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解)、保育の意義と児童観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 <p>2. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 <p>3. 子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン・子どもの健康と虐待</p> <p>4. 基本的な生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関する指導案作成と幼児の健康 <p>5. 子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 <p>6. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 <p>7. 健康と自然環境、園外保育の活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 <p>8. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ</p>				
成績評価基準	<p>成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「人間関係」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションがなされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。 3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。 				
授業概要	<p>こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p> <p>また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいと内容及びその取り扱い ・保育者としての役割 2. 保育者としての環境作りと評価 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定(情報機器含む) ・保育構想と指導案(模擬保育) 3. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① <ul style="list-style-type: none"> ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫 4. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② <ul style="list-style-type: none"> ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫 5. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ <ul style="list-style-type: none"> ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫 6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点 7. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画(情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育) 8. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画(情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育) 				
成績評価基準	<p>成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「環境」	授業区分	演習	単位数	1		
授業目標	<p>保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。 2. こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。 						
授業概要	<p>こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。</p>						
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは <ol style="list-style-type: none"> (1)環境の定義 (2)環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1)ねらいと内容 (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成(指導案の構成と作成) <ol style="list-style-type: none"> (1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 <ol style="list-style-type: none"> (1)好奇心・探究心 (2)思考力の芽生え </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 5. 保育環境のデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2)指導案作成(実際の指導案作成とデザインを図示指導)と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> (1)標識・文字との出会い (2)数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題(小学校との連携等) </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは <ol style="list-style-type: none"> (1)環境の定義 (2)環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1)ねらいと内容 (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成(指導案の構成と作成) <ol style="list-style-type: none"> (1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 <ol style="list-style-type: none"> (1)好奇心・探究心 (2)思考力の芽生え 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 保育環境のデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2)指導案作成(実際の指導案作成とデザインを図示指導)と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> (1)標識・文字との出会い (2)数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題(小学校との連携等)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは <ol style="list-style-type: none"> (1)環境の定義 (2)環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1)ねらいと内容 (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成(指導案の構成と作成) <ol style="list-style-type: none"> (1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 <ol style="list-style-type: none"> (1)好奇心・探究心 (2)思考力の芽生え 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 保育環境のデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2)指導案作成(実際の指導案作成とデザインを図示指導)と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> (1)標識・文字との出会い (2)数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題(小学校との連携等) 						
成績評価基準	<p>成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>						
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「言葉」	授業区分	演習	単位数	1		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び(わたべうた・なぞなぞ等)、文字体験(カルタ・標識・ごっこ遊び)等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。 6. こどもが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解する。 7. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 8. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方認識できるようになる。 9. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解する。 						
授業概要	<p>乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動(2) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 <ul style="list-style-type: none"> ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動(4) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用 ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動(2) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 <ul style="list-style-type: none"> ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動(4) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用 ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動(2) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 <ul style="list-style-type: none"> ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動(4) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用 ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携 						
成績評価基準	<p>成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)</p>						
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。 				
授業概要	<p>乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 2. 形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 4. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく） 5. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる） 6. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび） 7. 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび） 8. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用 まとめ 				
成績評価基準	<p>成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）</p>				
使用テキスト等	<p>「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「音楽表現」	授業区分	演習	単位数	2		
授業目標	<p>領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。</p>						
授業概要	<p>領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。</p>						
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解、表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解と表現活動における伴奏の方法と実践 3. 身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法、サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した 0、1、2 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した 3、4、5 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践、乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践と指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議、弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議、弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解、表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解と表現活動における伴奏の方法と実践 3. 身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法、サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した 0、1、2 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した 3、4、5 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践、乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践と指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議、弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議、弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解、表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解と表現活動における伴奏の方法と実践 3. 身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法、サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した 0、1、2 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した 3、4、5 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践、乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践と指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議、弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議、弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ 						
成績評価基準	<p>科目の成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)</p>						
使用テキスト等	<p>「こどもと音楽表現」(配本テキスト) 「音楽表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						
実務経験がある教員による授業科目	<p>幼児リトミック指導(通算11年)、米国にてリトミック・ソルフェージュ・合唱指導(7年) 小学校合唱部指導(2年) ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識と実践力を高める授業を行う。</p>						

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもと造形	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 2. えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3. 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。 				
授業概要	<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2. 幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について 3. えがく領域に伴う製作Ⅰ(えがく活動における指導・援助と実際) 4. つくる領域に伴う製作Ⅱ(つくる活動における指導・援助と実際) 5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ(造形遊びにおける指導・援助と実際) 6. 作品の研究及び発表 7. 幼児造形教育の課題について 8. まとめ 				
成績評価基準	<p>成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する 評価はルーブリック評価を用い行う)</p>				
使用テキスト等	<p>「造形表現論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	表現とこどもの運動	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し、その手立てを身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。				
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的背景を考慮しつつ <ol style="list-style-type: none"> ①運動遊びのねらい ②運動遊びの援助について(個別の支援計画等) 2. こどもの発達と運動について <ol style="list-style-type: none"> ①身体・形態・機能・こころの発育発達 ②こどもと運動 3. 運動遊びの基本的な動き <ol style="list-style-type: none"> ①基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登) ②運動表現の要素(調整力:身体認知・空間認識) 4: 身体コントロール能力の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①調整力中心の体づくり運動 ②音・色などの刺激に対応する運動 5. こどもの表現運動Ⅰ <ol style="list-style-type: none"> ①表現運動実施の教育的意義 ②身体表現運動とは 6. こどもの表現運動Ⅱ <ol style="list-style-type: none"> ①身体表現運動のねらい ②実施上の留意点 7. 発達段階と表現運動の実践(表現運動遊びの実践) <ol style="list-style-type: none"> ①年齢別発達における表現遊び(表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等) 				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「表現とこどもの運動」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	乳幼児保育 I	授業区分	講義	単位数	2		
授業目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業概要	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割、現状と課題について理解する。 また、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業計画表	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 </td> </tr> </table>					1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働
1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働						
成績評価基準	出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。						
使用テキスト等	「乳幼児保育 I」(配本テキスト)						
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、乳児保育の意義と目的、及び3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、保護者や関係機関との連携等について授業する。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	乳幼児保育Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳幼児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業計画	1. 子どもと保育士等との関係の重要性 2. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 3. 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実際 5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 6. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 7. 集団生活における配慮 8. 乳幼児保育における指導計画				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「乳幼児保育Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、3歳未満児の発育や発達を踏まえた生活と遊び、養護の視点からの配慮等について授業する。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの健康と安全	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	最近のデータや関連するガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。 演習を通して、実践力を高め、具体的な対応や援助方法が保育現場で活かせるようにする。				
授業概要	1. 現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。 2. 保育現場における感染症・事故防止・安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。 3. 年齢に即した対応が出来るよう演習を通して身につける。				
授業計画	1. 子どもの保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 ①近年の子どもの健康と保育環境 ②集団全体(施設等)の健康及び安全管理 2. 保育における感染症対策 ①子どもの感染症発生時とり患後の対応 ②保育園での集団発生の予防 ③家庭・関係機関などとの連携 3. 保育における健康・安全の危機管理 ①衛生管理 ②事故防止・安全対策 ③災害時の備え 4. 子どもの病気とその予防、適切な対応 ①体調不良や傷害が発生したときの対応 ②応急処置 ③救急処置・救急蘇生法 5. 個別的な配慮を要する子どもへの対応 ①慢性疾患・アレルギー性疾患など ②障害のある子どもへの対応 6. 健康管理・安全管理の連携の必要性 ①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 ③母子保健・小児保健・地域保健における自治体との連携 7. 保育における保健活動の計画および評価 8. 学生自らのリフレクション				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、ガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	障害児保育	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する 3. 障がいその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する				
授業概要	個々の障がい特性を理解し、障がい児だけでなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に着ける。				
授業計画	1. 障がいの概念と障がい児保育の歴史の変遷 2. 障がいのある子どもとの統合保育と地域社会への参加 3. 差別解消と合理的配慮 4. 身体障がい児の理解と支援 5. 知的、発達障がい児の理解と支援 6. その他の障がい児の理解と支援 7. 支援体制の構築(職員間、家族、地域社会、子ども同士) 8. 障がい児のコミュニケーション 9. 障がい児と遊ぶ1 10. 障がい児と遊ぶ2 11. 障がい児保育の健康と安全 12. 統合保育の活動 13. 支援体制づくりのために 14. 障がい児の支援計画 15. 障がい児保育の現状と課題				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:受講態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「障害児保育」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	臨床心理士の資格を有し、病院(心理部主任5年)、大学教官(助手・講師・助教授・教授通算41年)の勤務歴をもち、長年障がい児の療育に携わる経歴を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、障がいの特性や障がいをもつ子どもの理解と支援について理解し、保育者として必要な力を身に着ける授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会的養護Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する スクーリング:社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。				
授業概要	体験的な授業で、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術を身に着ける。				
授業計画	1. 社会的養護の子どもの理解 2. 自立支援 3. 相談援助の知識と技術1(コミュニケーション) 4. 相談援助の知識と技術2(リーダーシップ) 5. 相談援助の知識と技術3(コーチング) 6. ネットワークの知識と技術1(ディスカッション) 7. ネットワークの知識と技術2(チームビルディング) 8. 社会的養護の課題と展望				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	重度身障者入所授産施設指導員(3年)、乳児院(指導員8年、副院長歴5年、院長15年、会長6年) ※上記の経験を持つ教員により、社会的養護に関わる理解と相談援助の方法、家庭支援等に関する授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	子育て支援	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 スクーリング:子育て支援の実施について事例を通して具体的に理解する。保育相談支援の基本を学ぶ。				
授業概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の特性を生かした子育て支援 2. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 3. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援 4. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 5. 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 6. 地域の子育て家庭に対する支援 7. 子どもの虐待の予防と対応 8. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 				
成績評価基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習 I（保育所・施設）	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	初めての保育所実習、施設実習に対応できるように正しい知識や、実習態度を養い、保育の現場を体験して、子どもの姿や環境、保育士の仕事について理解する。見学、観察実習、参加実習、部分実習を通して、こども理解に努め、保育の全般について理解をする。乳幼児の発達についてより良く理解する。				
授業概要	保育所実習・施設実習				
授業計画	<p>実習期間 保育実習 I：1月末～2月初め（10日間） 施設実習：9月～10月（10日間）</p> <p>実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。</p>				
成績評価基準	実習評価表、実習態度等総合的に評価をおこなう。				
使用テキスト等	<p>「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーや、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。				
授業概要	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得えをテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。				
授業計画	1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー 「報告・連絡・相談」の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設の他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、幼保連携型認定こども園(主幹教諭・副園長通算5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行い、保育実習の意義・目的理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもとより、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育・教職実践演習	授業区分	講義 演習	単位数	2		
授業目標	授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。						
授業概要	これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。						
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という職業 2. 学級経営 3. 特別支援教育の基礎 4. 特別支援教育と教師・保育者 5. 保育における集団の編成 6. 幼児教育の将来的展望 7. 幼保小連携 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. ガイダンス 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング) 10. 保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究 11. 集団討論 I「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題 </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という職業 2. 学級経営 3. 特別支援教育の基礎 4. 特別支援教育と教師・保育者 5. 保育における集団の編成 6. 幼児教育の将来的展望 7. 幼保小連携 	<ol style="list-style-type: none"> 8. ガイダンス 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング) 10. 保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究 11. 集団討論 I「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という職業 2. 学級経営 3. 特別支援教育の基礎 4. 特別支援教育と教師・保育者 5. 保育における集団の編成 6. 幼児教育の将来的展望 7. 幼保小連携 	<ol style="list-style-type: none"> 8. ガイダンス 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイング) 10. 保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究 11. 集団討論 I「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題 						
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価:集団討論や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う</p>						
使用テキスト等	<p>「保育・教職実践演習」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育方法論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	授業のテーマおよび学習成果 教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。				
授業概要	教育方法の定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育(保育)の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.教育方法の定義・意義と守備範囲 2.教育方法の歴史的展開1(西欧の教育方法) 3.教育方法の歴史的展開2(近・現代の教育方法) 4.教育方法の歴史的展開3(日本の教育方法) 5.教育技術の革新と情報機器の活用 6.教材・教具の理解と活用 7.特色ある授業実践 8.教育現場における授業技術 9.授業分析と授業評価 10.授業展開の構想 11.幼児の理解と幼児教育(保育)の方法(生徒指導との関係も踏まえて) 12.近代以降の幼児教育(保育)方法 13.幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14.幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容 15.教育方法の課題と展望 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いて行う)</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いて行う)</p>				
使用テキスト等	<p>「教育方法論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>小学校勤務(教諭・教頭・校長 通算29年)、文部教官(6年)、教育センター(指導主事・主任主事通算5年)</p> <p>※上記の経験を持つ教員により教育方法の定義と意義、学習指導の理論と授業の方法、および評価等について授業を行う。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの理解と相談支援		授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指し、この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。</p>					
授業概要	<p>相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める</p>					
授業計画	<p>1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本とカウンセリングの基本的な方法 3. こどもを理解する視点① (こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験) 4. こどもを理解する視点② (葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行) 5. こどもを理解する方法① (知能検査・発達検査・行動観察法、他) 6. こどもを理解する方法② (観察・記録・省察・評価) 7. こどもを理解する方法③ (職員間の情報共有、保護者との情報共有) 8. こどもの自己理解を進める技法</p>		<p>9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際① (発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち) 13. 相談支援の実際② (不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント) 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援(幼・小の連携、親との連携) 15. 相談支援の課題と対応 (教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成)</p>			
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>					
使用テキスト等	<p>「こどもの理解と相談支援」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>					
実務経験がある教員による授業科目	<p>相談員・カウンセラー(30年) 小学校・大学・専門学校講師(通算32年) ※上記の経験を持つ教員により、相談支援の基本、子ども理解の視点と方法、幼稚園や小学校における子どもへの心理的援助や保護者支援に関する授業を行う。</p>					

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	言葉とこどもの文化	授業区分	講義	単位数	1		
授業目標	<p>本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。</p>						
授業概要	<p>言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。</p>						
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1. ことばの機能と言葉の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 <p>2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 <p>3. ことばを育てる児童文化財①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財とは ・絵本 <p>4. ことばを育てる児童文化財②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居 ・おはなし </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>5. ことばを育てる児童文化財③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） <p>6. ことばを育てる児童文化財④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび <p>7. ことばを育む教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究 <p>8. 保幼小連携について</p> </td> </tr> </table>					<p>1. ことばの機能と言葉の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 <p>2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 <p>3. ことばを育てる児童文化財①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財とは ・絵本 <p>4. ことばを育てる児童文化財②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居 ・おはなし 	<p>5. ことばを育てる児童文化財③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） <p>6. ことばを育てる児童文化財④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび <p>7. ことばを育む教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究 <p>8. 保幼小連携について</p>
<p>1. ことばの機能と言葉の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 <p>2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 <p>3. ことばを育てる児童文化財①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財とは ・絵本 <p>4. ことばを育てる児童文化財②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居 ・おはなし 	<p>5. ことばを育てる児童文化財③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） <p>6. ことばを育てる児童文化財④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび <p>7. ことばを育む教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究 <p>8. 保幼小連携について</p>						
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>						
使用テキスト等	<p>「言葉とこどもの文化」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	特別支援教育	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程 <ol style="list-style-type: none"> ①特別な教育的ニーズとは何か②特別支援教育課程と学びの場 2. 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 <ol style="list-style-type: none"> ①多様な子供のニーズの理解②多様な子供の学びと生活 4. 子供のニーズに合わせた支援 <ol style="list-style-type: none"> ①教育課程における支援②通常学級における担任による支援 5. 教育チームによる組織的支援 <ol style="list-style-type: none"> ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画②アセスメントに基づく計画と評価 6. 特別支援教育コーディネーター <ol style="list-style-type: none"> ①特別支援教育コーディネーターの役割②外部教育資源との連携と協働 7. 保護者・家庭支援と連携 <ol style="list-style-type: none"> ①保護者・家庭をとりまく問題②保護者・家庭とのつながりの重要性 8. 特別な教育的ニーズを考える <ol style="list-style-type: none"> ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う）</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う）</p>				
使用テキスト等	<p>「特別支援教育」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育心理学	授業区分	講義 演習	単位数	2		
授業目標	<p>教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動について学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。</p>						
授業概要	<p>教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。</p>						
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 <ol style="list-style-type: none"> ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 3. 学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」 <ol style="list-style-type: none"> ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価 <ol style="list-style-type: none"> ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. 発達課題に応じたかかわり <ol style="list-style-type: none"> ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 9. 子どもから大人への思考様式の変化 <ol style="list-style-type: none"> ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 10. 学習を支える記憶 <ol style="list-style-type: none"> ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化 11. 子どもの学びの姿 <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果 13. 子どもの遊びの重要性 <ol style="list-style-type: none"> ①遊びの変化 ②遊びを通じた社会性の発達 14. 子どもと道徳 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 15. 教育心理学を用いた環境づくり </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 <ol style="list-style-type: none"> ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 3. 学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」 <ol style="list-style-type: none"> ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価 <ol style="list-style-type: none"> ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 発達課題に応じたかかわり <ol style="list-style-type: none"> ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 9. 子どもから大人への思考様式の変化 <ol style="list-style-type: none"> ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 10. 学習を支える記憶 <ol style="list-style-type: none"> ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化 11. 子どもの学びの姿 <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果 13. 子どもの遊びの重要性 <ol style="list-style-type: none"> ①遊びの変化 ②遊びを通じた社会性の発達 14. 子どもと道徳 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 15. 教育心理学を用いた環境づくり
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 <ol style="list-style-type: none"> ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 3. 学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」 <ol style="list-style-type: none"> ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価 <ol style="list-style-type: none"> ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 発達課題に応じたかかわり <ol style="list-style-type: none"> ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 9. 子どもから大人への思考様式の変化 <ol style="list-style-type: none"> ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 10. 学習を支える記憶 <ol style="list-style-type: none"> ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化 11. 子どもの学びの姿 <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果 13. 子どもの遊びの重要性 <ol style="list-style-type: none"> ①遊びの変化 ②遊びを通じた社会性の発達 14. 子どもと道徳 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 15. 教育心理学を用いた環境づくり 						
成績評価基準	<p>学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>成績評価: 制作や授業態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>						
使用テキスト等	<p>「教育心理学」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「リズム表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。</p> <p>表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p> <p>保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。</p>				
授業概要	<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価 2. 基礎リズム <ol style="list-style-type: none"> ① 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ② 幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解 3. 基本動作 <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ② 観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践 4. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振り付けの実践 5. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 <ol style="list-style-type: none"> ① 楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ② オリジナル楽器を使った指導案の作成 6. 領域「表現」と小学校教科等のつながり <ol style="list-style-type: none"> ① オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について ② 領域「表現」と小学校教科等とのつながり 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> ① 絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 8. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ② 創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践 				
成績評価基準	<p>成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>幼児リズム指導（通算11年）、米国にてリズム・ソルフェージュ・合唱指導（7年） ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」における表現遊びを展開するために必要な知識や技術を理解し、保育指導法を修得していく授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	人間関係論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいと内容 ・領域の相補性（保育活動の総合性とは） 2. 人間関係と取り巻く社会環境① <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 ・家族の変化 3. 人間関係と取り巻く社会環境② <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境の変容 ・メディアの変化 4. 人間関係をつむぐこどもの発達 <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識と道徳性の芽生え（育ち） ・ルール、決まり事の意味と意義 5. 人間関係をつむぐこどもの発達 <ul style="list-style-type: none"> ・自立心、協同性の芽生え（育ち） ・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち） 6. 人間関係とこどもの遊び <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で育つ乳児の人間関係 ・遊びの中で育つ幼児の人間関係 7. 人間関係とこどもの生活 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭とのかかわりとこどもの発達 ・地域とのかかわりとこどもの発達 8. 今日の人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども） 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「人間関係論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	環境論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える 2. 環境を通して行う保育の意味を知る 3. 保育環境のデザインを実践できる 4. 様々な環境との出会いを理解する				
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
授業計画	1. 環境の定義 ①環境という言葉、環境の定義 ②環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ ①ねらい・内容 ②内容の取扱・指導計画 3. 保育における環境(保育と環境) ①人的環境・物的環境 ②自然環境、社会・文化環境 4. 幼児の身近な環境との関わり ①室内・室外 ②文字・標識・数量・図形 5. 行事 ①季節の行事 ②地域の行事 6. 地域・施設との関わり ①各施設の訪問 ②国際理解 7. 地域探検 ①住んでいる町を知ろう 8. 保育者としての専門性の向上 ①専門性の向上 ②保育マインドの向上				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「環境論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	健康論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身に付ける。				
授業概要	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎をつくる重要な時期である。幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児期の子どもの健康に対する知識と発育発達について学ぶ				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心と体の発達と健康課題 2. 乳幼児期の諸機能の発達と健康課題 <ul style="list-style-type: none"> :健康の定義と乳幼児期の健康の意義 3. 乳幼児期の体の発達的特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義 4. 乳幼児の安全教育に関する基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の健康管理に関する基本的な考え方 5. 乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の危険に関するリスク・ハザード 6. 乳幼児期の運動発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の生活・遊びと安全管理 7. 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮 8. 乳幼児の身体活動の在り方 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「保育内容 健康」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「言語表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。</p> <p>乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べるができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。</p>				
授業概要	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの言語表現指導法と指導案の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成 2. 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 <ul style="list-style-type: none"> ・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 3. 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 4. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 5. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成、模擬保育と評価方法・振り返り 6. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3) <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 7. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4) <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法、模擬保育と振り返り 8. 年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について 				
成績評価基準	<p>成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「保幼小連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>公立小学校勤(教諭・教頭・校長通算25年)、文部教官(9年)、教育委員会・教育センター(国語科指導主事等 通算16年)を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	造形表現論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。 				
授業概要	<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。</p>				
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 3. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価 4. えがく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具 5. つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材(廃材)、製作内容と材料・用具 6. 造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具 7. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ 				
成績評価 基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う）</p>				
使用テキスト等	<p>「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもと体育	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	<p>運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。</p> <p>《学習成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。 2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達との関係を理解する。 3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。 5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。 6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。 				
授業概要	<p>発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(講義) <ol style="list-style-type: none"> ①自然での遊び(水遊び、雪遊び等) ②戸外、森などでの遊び 2. 固定遊具の遊び <ol style="list-style-type: none"> ①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー 3. 遊具を使った遊びⅠ <ol style="list-style-type: none"> ①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール 4. 遊具を使った遊びⅡ(身近な遊具) <ol style="list-style-type: none"> ①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど 5. 大型遊具を使った遊び <ol style="list-style-type: none"> ①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動 6. サーキット遊び <ol style="list-style-type: none"> ①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び 7. 身体の実現による伝承遊びⅠ(遊具を使わない) <ol style="list-style-type: none"> ①鬼遊び、わらべ歌など(小身体活動) ②ケンケンパー、馬跳びなど(大身体活動) 8. 身体の実現による伝承遊びⅡ(遊具を使った) <ol style="list-style-type: none"> ①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等 				
成績評価基準	<p>績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	音楽表現論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解 2. 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 イメージを表現する為の音や音階の理解 3. 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 4. 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 5. 保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践 6. 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 7. 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ポर्टフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践 8. 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「音楽表現論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習Ⅱ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	<p>保育所保育実習 2 回目で、乳幼児に対する理解、保育方法を基に積極的に子どもと関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。特に保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。</p> <p>乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。</p> <p>保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。</p>				
授業概要	<p>保育所実習</p>				
授業計画	<p>保育所実習</p> <p>実習期間</p> <p>10月～11月初め (10日間)</p> <p>実習内容</p> <p>部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。</p>				
成績評価基準	<p>実習園での成績評価を基に総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育実習簿(配本)</p> <p>その他、その都度資料を準備する。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習Ⅲ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	<p>保育所施設実習 2 回目で、児童福祉施設に暮らす子どもに対する理解、保育方法を基に積極的に子どもと関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。特に施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なるが、保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。</p> <p>乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。</p> <p>保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。</p>				
授業概要	<p>保育所(施設)実習</p>				
授業計画	<p>保育所(施設)実習 実習期間 10月～11月初め（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。</p>				
成績評価基準	<p>実習園での成績評価を基に総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本) その他、その都度資料を準備する。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導Ⅱ	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。 また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。				
授業計画	1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定 2. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点 3. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(2) 子どもの基本的な生活習慣の獲得と保育支援 4. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(3) 遊びを展開するための知識等と環境設定の技術 5. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(4) 子どもの心に寄り添うとは何かについて 6. 保育知識と実習で身に付けてきてほしいこと(5) 環境構成の技術と人間関係構築の技術 7. 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点 8. 実習上の諸注意のまとめ(含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護)				
成績評価基準	成績評価:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)保育所保育士(13年)認定こども園(主幹教諭等5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行う。実習の意義・目的を理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもちろん、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導Ⅲ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1.児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2.児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3.児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4.児童福祉・障害者福祉における保育者の役割等を理解する。 5.施設内の連携、他機関との連携について理解する。 6.実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	施設により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。				
授業計画	1. 児童福祉施設の理解 ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状について(保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える) ① 乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際 ② 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点 5. 社会的弱者の基本を知る (1)マライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る(2) 人権の保護とエンパワーメント（人権侵害とは何か）について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実際の総括と評価				
成績評価基準	成績評価:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、認定こども園(主幹教諭等5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行う。実習の意義・目的を理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもちろん、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育実習 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 6月末～7月初め (10日間) 実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 幼稚園教育実習簿(配本テキスト)				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育実習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 9月 (10日間) 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 幼稚園教育実習簿(配本テキスト)				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育実習指導	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の特長 ・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理(守秘義務 職務に専念する義務 等) 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 <ul style="list-style-type: none"> ・実習生としての心構え ・事前相談・打ち合わせ 3. 観察・参加・責任実習 <ul style="list-style-type: none"> ・長期指導計画・短期指導計画 ・子どもを取り巻く環境(環境構成) ・幼児理解と保育 4. 教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解と支援 ・特別な支援を要する子どもへの対応 5. 実践演習 <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、読み聞かせ 6. 指導案作成(1) ・指導案とは何か 7. 指導案作成(2) ・指導案作成の実際 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解と学び ・保育者の活動からの学び 				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる) ※事前指導指導で合格すれば、教育実習要件の1つ満たす。事後指導において、成績評価を行う。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、教育実習の意義と内容、教師の援助と環境構成、保育指導案の作成等について学ぶ。実習後は実習の総括を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	人体構造と機能及び疾病	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ・ リハビリテーションの概要について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の成長・発達 ・ 心身機能と身体構造の概要 ・ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 ・ 健康の捉え方 ・ 疾病と障害の概要 ・ リハビリテーションの概要 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達と老化① 2 人の成長・発達と老化② 3 身体構造と心身の機能① 4 身体構造と心身の機能② 5 疾病の概要① 6 疾病の概要② 7 障害の概要① 8 障害の概要② 9 リハビリテーションの概要① 10 リハビリテーションの概要② 11 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要① 12 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要② 13 健康のとらえ方① 13 健康のとらえ方② 15 まとめ 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第1巻」（配本テキスト）</p> <p>「人体の構造と機能及び疾病 医学一般」（配本テキスト）</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	心理学理論と心理的支援	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ・ 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ・ 日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・ 心理的支援の方法と実際について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の心理学的理解 ・ 人の成長・発達と心理 ・ 日常生活と心の健康 ・ 心理的支援の方法と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学とは 2 性格 3 感情 4 欲求と動機づけ 5 感覚 6 知覚 7 認知 8 学習・記憶 9 知能・創造性・思考 10 人間環境と集団 11 対人交流とコミュニケーション 12 発達の概念 13 適応とストレス 14 面接・見立て・心理療法 15 脳と心—脳障害による思考や精神の機能障害の特徴とリハビリテーション 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第2巻」（配本テキスト） 「心理学理論と心理的支援—心理学」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会理論と社会システム	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ・ 生活について理解する。 ・ 人と社会の関係について理解する。 ・ 社会問題について理解する 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の理解 ・ 生活の理解 ・ 人と社会の関係 ・ 社会問題の理解 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会学とは（現代社会の理解） 2 社会学とは（社会システム） 3 社会学とは（法と社会システム） 4 社会学とは（経済と社会システム） 5 社会学とは（社会変動） 6 社会学とは（人口からみた社会変動） 7 生活の理解（生活のとらえ方、家族、地域） 8 人と社会の関係（社会的行為と役割） 9 人と社会の関係（社会集団と組織） 10 人と社会の関係（社会的ジレンマ） 11 人と社会の関係（社会関係資本と社会的連帯） 12 社会問題の理解（社会問題のとらえ方） 13 社会問題の理解（日本社会と社会問題） 14 社会問題の理解（共生社会と権利） 15 社会問題の理解（まとめ） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第3巻」（配本テキスト） 「社会理論と社会システム—社会学」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助の基盤と専門職	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 ・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ・ 相談援助の概念と範囲について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割と意義 ・ 精神保健福祉士の役割と意義 ・ 相談援助の概念と範囲 ・ 相談援助の理念 ・ 相談援助における権利擁護の意義 ・ 相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉士の役割と意義(社会福祉士の役割と意義) 2 社会福祉士の役割と意義(現代社会と地域生活) 3 相談援助の定義と構成要素(ソーシャルワークの概念) 4 相談援助の定義と構成要素(ソーシャルワークの構成要素) 5 相談援助の形成過程Ⅰ(ソーシャルワークの源流) 6 相談援助の形成過程Ⅰ(ソーシャルワークの基礎確立期(～1930年代)) 7 相談援助の形成過程Ⅱ(ソーシャルワークの発展期(1940代～50年代半ば)) 8 相談援助の形成過程Ⅱ(ソーシャルワークの展開期(1950年代半ば～1960年代以降)) 9 相談援助の形成過程ⅠⅠ(ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク) 10 相談援助の理念Ⅰ(ソーシャルワーカーと価値) 11 相談援助の理念Ⅰ(ソーシャルワーク実践と価値) 12 相談援助の理念Ⅰ(ソーシャルワーク実践と権利擁護) 13 相談援助の理念Ⅰ(クライアントの尊厳と自己決定) 14 相談援助の理念Ⅰ(ノーマライゼーションと社会的包摂) 15 専門職倫理と倫理的ジレンマ(専門職倫理の概念) 16 専門職倫理と倫理的ジレンマ(倫理綱領の意義と内容) 17 専門職倫理と倫理的ジレンマ(ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ) 18 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景) 19 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座・四つのパラダイムシフト) 20 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能) 21 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点) 22 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質・「総合的かつ包括的な相談援助」の基礎理論) 23 相談援助にかかる専門職の概念と範囲(相談援助専門職の概念) 24 相談援助にかかる専門職の概念と範囲(相談援助専門職の範囲) 25 相談援助にかかる専門職の概念と範囲(諸外国の動向) 26 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(予防機能) 27 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(新しいニーズへの対応機能) 28 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(総合的支援機能) 29 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(権利擁護機能) 30 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能(社会資源開発機能) 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第6巻」(配本テキスト)</p> <p>「相談援助の基盤と専門職」(配本テキスト)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。</p> <p>※上記の経験のある園長により、社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について理解するように授業を行う。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助の理論と方法 I	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 人と環境の交互作用 相談援助の対象 様々な実践モデルとアプローチ 相談援助の過程 相談援助における援助関係 相談援助のための面接技術 ケースマネジメントとケアマネジメント アウトリーチ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ネットワーク（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。） 集団を活用した相談援助 スーパービジョン、記録 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点 相談援助における情報通信技術（IT）の活用 事例分析 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。） 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 相談援助とは（ソーシャルワーカーの具体的な事例、仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み、ソーシャルワークを構成する要素、ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織） 相談援助の構造と機能（ソーシャルワークの構造、ソーシャルワークにおけるニーズ、ソーシャルワークの機能） 人と環境の交互作用 相談援助における援助関係（援助関係の意義、援助関係の形成プロセスに影響する要因、援助構造と援助関係、援助関係の質と自己覚知、援助関係とミクロからマクロ実践領域） 相談援助の展開過程Ⅰ（相談援助の展開過程の流れ、ケース発見、受理面接（インテーク）、問題把握からニーズ確定まで） 相談援助の展開過程Ⅱ（ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで、事前評価（アセスメント）から支援標的・目標設定まで支援標的・目標設定から支援の計画（プランニング）まで、支援の計画（プランニング）から支援の実施まで） 相談援助の展開過程Ⅲ（経過観察（モニタリング）、再アセスメントと支援の強化、支援の終結と効果測定・評価・アフターケア予防的対応とサービス開発） 相談援助のためのアウトリーチの技術（アウトリーチの意義と目的、アウトリーチの方法と留意点） 相談援助のための契約の技術（契約の意義と目的、契約の方法と留意点） 相談援助のためのアセスメントの技術（ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性・援助的関係・面接、アセスメントで得べき情報16項目と視覚化できるアセスメントツール・統合的アセスメントとエコマップ、ジェノグラム、アセスメント面接で得た情報・情報統合化に必要な知識・想像力・統合力・分析力） 相談援助のための介入の技術（介入の意義と目的、介入の方法と留意点） 相談援助のための経過観察（モニタリング）・再アセスメント・効果測定・評価の技術（経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価とサービス開発） 相談援助のための面接の技術（相談援助における面接の目的、相談援助における面接の展開、面接において用いる技術とコミュニケーション、相談援助における面接の形態） 相談援助のための記録の技術（記録の意義と活用目的、記録の種類と活用、記録の方法とIT化・倫理的配慮について、記録の技術の実際例と今後の課題） 相談援助のための交渉の技術（交渉の意義と目的、交渉の方法と留意点、プレゼンテーションの技術） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第7巻」（配本テキスト） 「相談援助の理論と方法Ⅰ」（配本テキスト）				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	地域福祉の理論と方法	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 ・地域福祉の主体と対象について理解する。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的考え方 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 ・地域福祉の主体と対象 ・地域福祉の推進方法 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 新しい社会福祉システム（地域福祉の発展過程、行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉） 2 新しい社会福祉システム（新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成） 3 地域福祉の基本的な考え方（地域福祉理論の発展と広がり、地域自立生活支援と地域福祉の理念） 4 地域福祉の基本的な考え方（地域のとらえ方と福祉圏域、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携） 5 地域福祉の主体と福祉教育（地域福祉の推進と福祉教育容） 6 地域福祉の主体と福祉教育（地域福祉の推進と福祉教育の歩み、福祉教育の概念と内容） 7 行政組織と民間組織の役割と実際（社会福祉における地方分権化と地域福祉計画、社会福祉協会の役割と実際） 8 行政組織と民間組織の役割と実際（社会福祉法人の役割と実際、特定非営利法人の役割と実際のボランティア活動） 9 行政組織と民間組織の役割と実際（民生委員・児童委員・保護司、福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献） 10 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（コミュニティソーシャルワークの考え方） 11 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（コミュニティソーシャルワークの展開とシステム） 12 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（コミュニティソーシャルワークの方法） 13 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、専門職と住民の関係） 14 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（専門職と住民の関係・コミュニティソーシャルワーカーの役割） 15 住民の参加と方法（地域福祉推進における住民参加の意義） 16 住民の参加と方法（市町村社会福祉行政における住民参加、住民の代表性と参加方法） 17 ソーシャルサポートネットワーク（ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置） 18 ソーシャルサポートネットワーク（ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ） 19 ソーシャルサポートネットワーク（ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク） 20 地域における社会資源活用・調整・開発（社会資源の概要、社会資源の活用法とコーディネート） 21 地域における社会資源活用・調整・開発（福祉サービスの開発、税制優遇と助成金の活用、福祉でまちづくりとソーシャルアクション） 22 地域における福祉ニーズの把握方法と実際（地域福祉におけるアウトリーチの意義、質的な福祉ニーズの把握方法と実際） 23 地域における福祉ニーズの把握方法と実際（量的な福祉ニーズの把握方法と実際） 24 地域トータルケアシステムの構築と実際（地域トータルケアシステムの必要性と考え方） 25 地域トータルケアシステムの構築と実際（地域トータルケアシステムの展開方法） 26 地域トータルケアシステムの構築と実際（地域トータルケアシステムの事例、ソーシャルケア従事者の研修と組織化） 27 地域における福祉サービスの評価方法と実際（福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の考え方） 28 地域における福祉サービスの評価方法と実際（福祉サービスの評価の方法と実際） 29 地域における福祉サービスの評価方法と実際（福祉サービスのプログラム評価とその展開） 30 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリス・アメリカ） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第9巻」（配本テキスト） 「地域福祉の理論と方法—地域福祉論」（配本テキスト）</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	福祉行財政と福祉計画	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 ・ 福祉行財政の実際について理解する。 ・ 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉行政の実施体制 ・ 福祉行財政の動向 ・ 福祉計画の意義と目的 ・ 福祉計画の主体と方法 ・ 福祉計画の実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉行財政と福祉計画（福祉と制度、福祉の法制度の展開） 2 福祉行財政と福祉計画（福祉計画の概要） 3 福祉行政（行政の骨格、社会福祉と法制度） 4 福祉行政（福祉行政の組織、社会福祉基礎構造） 5 福祉財政（財政と社会福祉、一般会計予算と社会保障関係費の動向、地方自治体の財政と民生費の動向） 6 福祉財政（民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担） 7 福祉財政（財政と社会福祉、一般会計予算と社会保障関係費の動向、地方自治体の財政と民生費の動向） 8 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（社会福祉基礎構造改革、相談過程、相談体制） 9 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（専門諸機関、地域の相談システム、専門職） 10 福祉計画の目的と意義（福祉計画の目的・意義とは、福祉援助の現場から福祉計画へ・個別の福祉援助と計画における推計） 11 福祉計画の目的と意義（計画のサイクルと福祉援助の現場） 12 福祉計画の理論と技法（福祉計画の基本的視点、福祉計画の過程と留意点、福祉計画におけるニーズ把握） 13 福祉計画の理論と技法（福祉計画における評価、福祉計画における住民参加） 14 福祉計画の実際（福祉計画の事例研究の視点、老人福祉計画・介護保険事業計画） 15 福祉計画の実際（障害者計画・障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第10巻」（配本テキスト）</p> <p>「福祉行財政と福祉計画」（配本テキスト）</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会保障	授業区分	講義	単位数	4																																
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 社会保障制度の体系と概要について理解する。 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 																																				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。） 社会保障の概念や対象及びその理念 社会保障の財源と費用 社会保険と社会扶助の関係 公的保険制度と民間保険制度の関係 社会保障制度の体系 年金保険制度の具体的内容 医療保険制度の具体的内容 諸外国における社会保障制度の概要 																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 現代社会と社会保障 (私たちの生活と社会保障)</td> <td>1 7 介護保険制度 (介護保険制度創設の経緯)</td> </tr> <tr> <td>2 現代社会と社会保障 (社会保障の理念と機能)</td> <td>1 8 介護保険制度 (介護保険制度の概要)</td> </tr> <tr> <td>3 社会保障の歴史 (欧米における社会保障の歴史的展開)</td> <td>1 9 介護保険制度 (介護保険制度をめぐる最近の動向)</td> </tr> <tr> <td>4 社会保障の歴史 (日本における社会保障の歴史的展開)</td> <td>2 0 労働保険制度 (労働保険制度の沿革と概要)</td> </tr> <tr> <td>5 社会保障の構造 (社会保障制度の体系)</td> <td>2 1 労働保険制度 (労働者災害補償保険、雇用保険)</td> </tr> <tr> <td>6 社会保障の構造 (社会保険の構造)</td> <td>2 2 労働保険制度 (労働保険制度をめぐる最近の動向)</td> </tr> <tr> <td>7 社会保障の構造 (社会扶助の構造)</td> <td>2 3 社会福祉制度 (社会福祉制度の沿革と概要)</td> </tr> <tr> <td>8 社会保障の財源と費用 (社会保障給付費の推移)</td> <td>2 4 社会福祉制度 (生活保護制度 (公的扶助)、児童福祉、 障害者福祉、母子・寡婦福祉、</td> </tr> <tr> <td>9 社会保障の財源と費用 (社会保障の財源)</td> <td>2 5 社会福祉制度 (高齢者福祉、社会手当 制度)</td> </tr> <tr> <td>1 0 社会保障の財源と費用 (社会保障と経済)</td> <td>2 6 社会保障と民間保険 (民間保険に期待さ れる役割、古典的な社会保険と民間保険 の比較)</td> </tr> <tr> <td>1 1 年金保険制度 (年金保険制度の沿革と概要)</td> <td>2 7 社会保障と民間保険 (民間保険の概要、 企業年金等)</td> </tr> <tr> <td>1 2 年金保険制度 (国民年金、厚生年金保険、共済年金)</td> <td>2 8 社会保障が当面する課題 (少子高齢化の 動向、労働市場の変化と社会保障、少子 化への取組み)</td> </tr> <tr> <td>1 3 年金保険制度 (年金保険制度をめぐる最近の動向)</td> <td>2 9 諸外国における社会保障制度 (欧州の社 会保障制度、アメリカの社会保障制度、 東アジアの社会保障制度、)</td> </tr> <tr> <td>1 4 医療保険制度 (医療保険制度の沿革と概要)</td> <td>3 0 諸外国における社会保障制度 (社会保障制度の国際化)</td> </tr> <tr> <td>1 5 医療保険制度 (健康保険と共済制度、 国民健康保険制度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 6 医療保険制度 (後期高齢者医療制度 (長寿医療制度)、 国民医療費と医療をめぐる最近の動向)</td> <td></td> </tr> </table>					1 現代社会と社会保障 (私たちの生活と社会保障)	1 7 介護保険制度 (介護保険制度創設の経緯)	2 現代社会と社会保障 (社会保障の理念と機能)	1 8 介護保険制度 (介護保険制度の概要)	3 社会保障の歴史 (欧米における社会保障の歴史的展開)	1 9 介護保険制度 (介護保険制度をめぐる最近の動向)	4 社会保障の歴史 (日本における社会保障の歴史的展開)	2 0 労働保険制度 (労働保険制度の沿革と概要)	5 社会保障の構造 (社会保障制度の体系)	2 1 労働保険制度 (労働者災害補償保険、雇用保険)	6 社会保障の構造 (社会保険の構造)	2 2 労働保険制度 (労働保険制度をめぐる最近の動向)	7 社会保障の構造 (社会扶助の構造)	2 3 社会福祉制度 (社会福祉制度の沿革と概要)	8 社会保障の財源と費用 (社会保障給付費の推移)	2 4 社会福祉制度 (生活保護制度 (公的扶助)、児童福祉、 障害者福祉、母子・寡婦福祉、	9 社会保障の財源と費用 (社会保障の財源)	2 5 社会福祉制度 (高齢者福祉、社会手当 制度)	1 0 社会保障の財源と費用 (社会保障と経済)	2 6 社会保障と民間保険 (民間保険に期待さ れる役割、古典的な社会保険と民間保険 の比較)	1 1 年金保険制度 (年金保険制度の沿革と概要)	2 7 社会保障と民間保険 (民間保険の概要、 企業年金等)	1 2 年金保険制度 (国民年金、厚生年金保険、共済年金)	2 8 社会保障が当面する課題 (少子高齢化の 動向、労働市場の変化と社会保障、少子 化への取組み)	1 3 年金保険制度 (年金保険制度をめぐる最近の動向)	2 9 諸外国における社会保障制度 (欧州の社 会保障制度、アメリカの社会保障制度、 東アジアの社会保障制度、)	1 4 医療保険制度 (医療保険制度の沿革と概要)	3 0 諸外国における社会保障制度 (社会保障制度の国際化)	1 5 医療保険制度 (健康保険と共済制度、 国民健康保険制度)		1 6 医療保険制度 (後期高齢者医療制度 (長寿医療制度)、 国民医療費と医療をめぐる最近の動向)	
1 現代社会と社会保障 (私たちの生活と社会保障)	1 7 介護保険制度 (介護保険制度創設の経緯)																																				
2 現代社会と社会保障 (社会保障の理念と機能)	1 8 介護保険制度 (介護保険制度の概要)																																				
3 社会保障の歴史 (欧米における社会保障の歴史的展開)	1 9 介護保険制度 (介護保険制度をめぐる最近の動向)																																				
4 社会保障の歴史 (日本における社会保障の歴史的展開)	2 0 労働保険制度 (労働保険制度の沿革と概要)																																				
5 社会保障の構造 (社会保障制度の体系)	2 1 労働保険制度 (労働者災害補償保険、雇用保険)																																				
6 社会保障の構造 (社会保険の構造)	2 2 労働保険制度 (労働保険制度をめぐる最近の動向)																																				
7 社会保障の構造 (社会扶助の構造)	2 3 社会福祉制度 (社会福祉制度の沿革と概要)																																				
8 社会保障の財源と費用 (社会保障給付費の推移)	2 4 社会福祉制度 (生活保護制度 (公的扶助)、児童福祉、 障害者福祉、母子・寡婦福祉、																																				
9 社会保障の財源と費用 (社会保障の財源)	2 5 社会福祉制度 (高齢者福祉、社会手当 制度)																																				
1 0 社会保障の財源と費用 (社会保障と経済)	2 6 社会保障と民間保険 (民間保険に期待さ れる役割、古典的な社会保険と民間保険 の比較)																																				
1 1 年金保険制度 (年金保険制度の沿革と概要)	2 7 社会保障と民間保険 (民間保険の概要、 企業年金等)																																				
1 2 年金保険制度 (国民年金、厚生年金保険、共済年金)	2 8 社会保障が当面する課題 (少子高齢化の 動向、労働市場の変化と社会保障、少子 化への取組み)																																				
1 3 年金保険制度 (年金保険制度をめぐる最近の動向)	2 9 諸外国における社会保障制度 (欧州の社 会保障制度、アメリカの社会保障制度、 東アジアの社会保障制度、)																																				
1 4 医療保険制度 (医療保険制度の沿革と概要)	3 0 諸外国における社会保障制度 (社会保障制度の国際化)																																				
1 5 医療保険制度 (健康保険と共済制度、 国民健康保険制度)																																					
1 6 医療保険制度 (後期高齢者医療制度 (長寿医療制度)、 国民医療費と医療をめぐる最近の動向)																																					
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。																																				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第12巻」(配本テキスト) 「社会保障」(配本テキスト)																																				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度（前期）	授業区分	講義	単位数	4		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。 ・ 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ・ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ・ 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する 						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。） ・ 高齢者福祉制度の発展過程 ・ 介護の概念や対象 ・ 介護予防 ・ 介護過程 ・ 認知症ケア ・ 終末期ケア ・ 介護と住環境 ・ 介護保険法 ・ 介護報酬 ・ 介護保険法における組織及び団体の役割と実際 ・ 介護保険法における専門職の役割と実際 ・ 介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・ 地域包括支援センターの役割と実際 ・ 老人福祉法 ・ 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・ 高齢者の居住の安定確保に関する法律 						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性（高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、 2 高齢者の特性（高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期） 3 少子高齢社会と高齢者（少子高齢社会の社会的問題） 4 少子高齢社会と高齢者（高齢者を取り巻く諸問題） 5 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代） 6 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉制度の発展） 7 高齢者支援の関係法規（高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法） 8 高齢者支援の関係法規（高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規） 9 介護保険法の基本的枠組み（介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み（保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向） 11 介護保険制度の仕組み（要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業） 12 介護保険制度の仕組み（介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み） 13 介護保険サービスの体系（介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス） 15 高齢者を支援する組織と役割（行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動） </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性（高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、 2 高齢者の特性（高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期） 3 少子高齢社会と高齢者（少子高齢社会の社会的問題） 4 少子高齢社会と高齢者（高齢者を取り巻く諸問題） 5 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代） 6 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉制度の発展） 7 高齢者支援の関係法規（高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法） 8 高齢者支援の関係法規（高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規） 9 介護保険法の基本的枠組み（介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念） 	<ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み（保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向） 11 介護保険制度の仕組み（要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業） 12 介護保険制度の仕組み（介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み） 13 介護保険サービスの体系（介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス） 15 高齢者を支援する組織と役割（行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動）
<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性（高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、 2 高齢者の特性（高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期） 3 少子高齢社会と高齢者（少子高齢社会の社会的問題） 4 少子高齢社会と高齢者（高齢者を取り巻く諸問題） 5 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代） 6 高齢者保健福祉の発展（高齢者保健福祉制度の発展） 7 高齢者支援の関係法規（高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法） 8 高齢者支援の関係法規（高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規） 9 介護保険法の基本的枠組み（介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念） 	<ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み（保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向） 11 介護保険制度の仕組み（要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業） 12 介護保険制度の仕組み（介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み） 13 介護保険サービスの体系（介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス） 15 高齢者を支援する組織と役割（行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動） 						
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。						
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第13巻」（配本テキスト） 「第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」（配本テキスト）						
実務経験がある教員による授業科目	看護師（26年） ※上記の経験のある看護師により、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解するように授業を行う。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度（後期）	授業区分	講義	単位数	—		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。 ・高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。 ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する 						
授業概要	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。） ・高齢者福祉制度の発展過程 ・介護の概念や対象 ・介護予防 ・介護過程 ・認知症ケア ・終末期ケア ・介護と住環境 ・介護保険法 ・介護報酬 ・介護保険法における組織及び団体の役割と実際 </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法における専門職の役割と実際 ・介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・地域包括支援センターの役割と実際 ・老人福祉法 ・高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・高齢者の居住の安定確保に関する法律 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。） ・高齢者福祉制度の発展過程 ・介護の概念や対象 ・介護予防 ・介護過程 ・認知症ケア ・終末期ケア ・介護と住環境 ・介護保険法 ・介護報酬 ・介護保険法における組織及び団体の役割と実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法における専門職の役割と実際 ・介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・地域包括支援センターの役割と実際 ・老人福祉法 ・高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・高齢者の居住の安定確保に関する法律
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。） ・高齢者福祉制度の発展過程 ・介護の概念や対象 ・介護予防 ・介護過程 ・認知症ケア ・終末期ケア ・介護と住環境 ・介護保険法 ・介護報酬 ・介護保険法における組織及び団体の役割と実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法における専門職の役割と実際 ・介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・地域包括支援センターの役割と実際 ・老人福祉法 ・高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・高齢者の居住の安定確保に関する法律 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者支援の方法と実際（高齢者支援の方法） 2 高齢者支援の方法と実際（介護保険法における連携と実際） 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職の役割と実際） 4 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職による協働（多職種連携）） 5 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職の倫理） 6 介護の概念や対象（介護の概念と範囲、介護の理念） 7 介護の概念や対象（介護の対象、介護予防） 8 介護過程（介護過程の概要、介護過程の展開技法） 9 介護各論(1)（自立に向けた介護、家事における自立支援） 10 介護各論(1)-①（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 介護各論(1)-②（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 12 介護各論(1)-③（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 13 介護各論(2)（認知症ケア） 14 介護各論(2)（認終末期ケア、住環境） 15 近未来の高齢者福祉課題 						
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。						
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第13巻」（配本テキスト） 「第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」（配本テキスト）						
実務経験がある教員による授業科目	看護師（26年） ※上記の経験のある看護師により、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について授業を行う。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。 ・ 障害者福祉制度の発展過程について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 ・ 障害者福祉制度の発展過程 ・ 障害者自立支援法 ・ 障害者自立支援法における組織及び団体の役割と実際 ・ 障害者自立支援法における専門職の役割と実際 ・ 障害者自立支援法における多職種連携、ネットワークングと実際 ・ 相談支援事業所の役割と実際 ・ 身体障害者福祉法 ・ 知的障害者福祉法 ・ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・ 発達障害者支援法 ・ 障害者基本法 ・ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律 ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・ 障害者の雇用の促進等に関する法律 <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態（障害者を取り巻く社会情勢） 2 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態（障害者の生活実態、障害とは） 3 障害者にかかわる法体系（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法） 4 障害者にかかわる法体系（精神保健福祉法、発達障害者福祉法、医療観察法） 5 障害者にかかわる法体系（バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者に関わるその他の法律の体系、各省庁の障害者施策等） 6 障害者自立支援制度(1)（障害者自立支援法の理念・考え方、自立支援給付） 7 障害者自立支援制度(1)（支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費） 8 障害者自立支援制度(1)（地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求、障害者自立支援法と介護保険の関係） 9 障害者自立支援制度(2)（障害児に対する支援、障害児に対する支援の最近の動向） 10 組織・機関の役割（行政機関の役割、指定障害福祉サービス事業者および指定障害者支援施設の役割） 11 組織・機関の役割(国民健康保険団体連合会の役割、労働機関の役割、教育機関の役割) 12 専門職の役割と実際(障害者にかかわる専門職の価値・倫理、障害者自立支援法に基づく主な専門職) 13 専門職の役割と実際(相談支援専門員の役割と実際、サービス管理責任者の役割と実際) 14 専門職の役割と実際(生活支援員等の役割と実際、居宅介護等従事者の役割と実際) 15 多職種連携・ネットワークング(多職種連携の意味、医療・教育・労働関係機関との連携、多職種連携の方法と実際) 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第14巻」(配本テキスト)</p> <p>「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」(配本テキスト)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 ・ 児童の権利について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。)と実際 ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程 ・ 児童の定義と権利 ・ 児童福祉法 ・ 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法） ・ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（D.V 法） ・ 母子及び寡婦福祉法 ・ 母子保健法 ・ 児童手当法 ・ 児童扶養手当法 ・ 特別児童扶養手当等の支給に関する法律 ・ 次世代育成支援対策推進法 ・ 少子化社会対策基本法 ・ 売春防止法 ・ 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際 ・ 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 ・ 児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際 ・ 児童相談所の役割と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と子ども家庭（少子高齢社会と次世代育成支援、現代社会と子ども家庭の問題） 2 現代社会と子ども家庭（子どもの育ち） 3 現代社会と子ども家庭（子育てのニーズ） 4 子ども家庭福祉とは何か（子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念） 5 子ども家庭福祉とは何か（子どもと家庭の権利保障、児童福祉の発展） 6 子ども家庭福祉にかかわる法制度(子ども家庭福祉の法体系、子ども家庭福祉の実施体制) 7 子ども家庭福祉にかかわる法制度(子ども家庭福祉の財政、子ども家庭福祉の専門職) 8 子ども家庭福祉にかかわる法制度(苦情解決と権利擁護) 9 子ども家庭にかかわる福祉・保健(母子保健、障害・難病のある子どもと家族への支援、児童健全育成) 10 子ども家庭にかかわる福祉・保健(保育、子育て支援、ひとり親家庭の福祉、児童の社会的養護サービス) 11 子ども家庭にかかわる福祉・保健(非行児童・情緒障害児への支援、児童虐待対策) 12 子ども家庭にかかわる福祉・保健(子どもと家庭にかかわる女性福祉) 13 子ども家庭への援助活動(子ども家庭への相談援助活動) 14 子ども家庭への援助活動(施設ケアと子ども家庭福祉援助活動) 15 子ども家庭への援助活動(地域援助活動とネットワーク) 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第15巻」(配本テキスト) 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 一児童福祉論」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	乳児院 現施設長 ※上記の経験のある乳児院施設長により、児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助演習	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	<p>・ 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>				
授業概要	<p>・ 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ・ 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習により行うこと。</p>				
授業計画	<p>① 以下の内容については相談援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておく</p> <p>ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ 次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する （ア）社会的排除 （イ）虐待（児童・高齢者） （ウ）家庭内暴力（D.V） （エ）低所得者 （オ）ホームレス （カ）その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）</p> <p>オ エに掲げる事例等を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う （ア）インテーク （イ）アセスメント （ウ）プランニング （エ）支援の実施 （オ）モニタリング （カ）効果測定 （キ）終結とアフターケア</p> <p>カ オの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含める （ア）アウトリーチ （イ）チームアプローチ （ウ）ネットワークング （エ）社会資源の活用・調整・開発</p> <p>キ 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行う （ア）地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 （イ）地域福祉の計画 （ウ）ネットワークング （エ）社会資源の活用・調整・開発 （オ）サービスの評価</p> <p>② 相談援助実習後に行うこと。相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における生徒の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う</p>				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	現代社会と福祉	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・福祉政策の課題について理解する。 ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における福祉制度と福祉政策 ・福祉の原理をめぐる理論と哲学 ・福祉制度の発達過程 ・福祉政策におけるニーズと資源 ・福祉政策の課題 ・福祉政策の構成要素 ・福祉政策と関連政策 ・相談援助活動と福祉政策の関係 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視点と枠組み (社会福祉の拡大と限定) 2 視点と枠組み (社会福祉の専門職) 3 現代の社会と取り組むべき課題 4 福祉政策とは何か (福祉と福祉政策、福祉政策の理念) 5 福祉政策とは何か (福祉政策とその実体化) 6 福祉政策の思想と哲学 (福祉の思想、ロールズとセンに学ぶもの) 7 社会政策と福祉政策 (社会政策のなかの福祉政策) 8 社会政策と福祉政策 (福祉政策の体系) 9 社会政策と福祉政策 (社会政策の体系と社会福祉政策) 10 福祉政策の発達過程 (近代化と福祉政策) 11 福祉政策の発達過程 (戦後改革と高度経済成長期の福祉政策) 12 少子高齢化時代の福祉政策 (福祉政策の調整と進展「福祉元年」以降、) 13 少子高齢化時代の福祉政策 (1990年代以降の福祉政策「調整」から「改革」へ) 14 福祉政策における必要と資源 (ニーズとは何か) 15 福祉政策における必要と資源 (ニーズと福祉政策、) 16 福祉政策における必要と資源 (ニーズの判定、) 17 福祉政策における必要と資源 (福祉政策の資源) 18 福祉政策の基本的枠組み (福祉政策の理念) 19 福祉政策の基本的枠組み (福祉政策の手法と政策決定過程・評価) 20 福祉政策の関連領域 (人権擁護と福祉政策) 21 福祉政策の関連領域 (所得政策と福祉政策) 22 福祉政策の関連領域 (雇用と福祉政策) 23 福祉政策の関連領域 (保健医療と福祉政策) 24 福祉政策の関連領域 (教育と福祉政策) 26 福祉政策の関連領域 (住宅と福祉政策) 27 社会福祉制度の体系 (社会福祉制度の構造、社会福祉制度と福祉サービス) 28 福祉サービスの提供 (福祉サービスの提供、運営管理部門) 29 福祉サービスと援助活動 (相談援助の原則・視点・考え方と方法、地域福祉への展開・社会福祉が行う地域社会への働きかけ) 30 福祉政策の国際比較 (欧米の福祉政策、東アジア諸国の福祉政策) 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第4巻」(配本テキスト) 「現代社会と福祉—社会福祉原論」(配本テキスト)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	社会調査の基礎	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 ・ 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・ 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会調査の意義と目的 ・ 統計法 ・ 社会調査における倫理 ・ 社会調査における個人情報保護 ・ 量的調査の方法 ・ 質的調査の方法 ・ 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉と社会調査（実践の学としての社会福祉） 2 社会福祉と社会調査（社会福祉と社会調査） 3 社会調査の概要（社会調査の意義と目的、社会調査の対象と方法） 4 社会調査の概要（社会調査を取り巻く状況、統計法の概要） 5 量的調査の方法①（量的調査の特徴と種類、調査票（質問紙）の作成方法と留意点） 6 量的調査の方法②（量的調査の特徴と種類、調査票（質問紙）の作成方法と留意点） 7 量的調査の方法（調査票の配布と回収、量的調査におけるデータ解析） 8 質的調査の方法（質的調査の特徴と種類、調査設計、対象者の選定と調査手続） 9 質的調査の方法（調査方法、質的調査における調査の実施、質的調査におけるデータの分析） 10 質的調査の方法①（質的調査における発表・報告） 11 質的調査の方法②（質的調査における発表・報告） 12 社会調査における倫理と個人情報保護 13 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法（データの集積） 14 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法（さまざまな IT の活用と方法） 15 社会科学としての社会福祉 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第5巻」（配本テキスト） 「社会調査の基礎」（配本テキスト）				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 人と環境の相互作用 相談援助の対象 様々な実践モデルとアプローチ 相談援助の過程 相談援助における援助関係 相談援助のための面接技術 ケースマネジメントとケアマネジメント アウトリーチ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。） 集団を活用した相談援助 スーパービジョン、記録 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点 相談援助における情報通信技術（IT）の活用 事例分析 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。） 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 相談援助における対象の理解（社会福祉援助活動の概念と定義、相談援助の対象をどうとらえるか） ケースマネジメント（ケアマネジメント）（ケースマネジメントの基本と過程・特徴、ケアプランの作成・実施の特徴、ケースマネジメントの特徴、ケースマネジメントとソーシャルワークの関係） グループを活用した相談援助（グループを活用した相談援助、自助グループを活用した相談援助） コーディネーションとネットワーキング（コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点 第25 ネットワーキングの意義と目的・方法、地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化） 相談援助における社会資源の活用・調整・開発（社会資源の活用・調整・開発の意義と目的、社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点、ソーシャルアクションによるシステムづくり） さまざまな実践モデルとアプローチⅠ（実践モデルとその意味、治療モデル、生活モデル、ストレンジスモデル、ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル） さまざまな実践モデルとアプローチⅡ（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ） さまざまな実践モデルとアプローチⅢ（エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、その他の実践アプローチ、実践アプローチをめぐる課題） スーパービジョンとコンサルテーションの技術（スーパービジョンの意義と目的・方法と留意点、コンサルテーション） ケースカンファレンスの技術（ケースカンファレンスの意義と目的・運営と展開過程、ケースカンファレンスの実際・事例検討の過程、評価と普遍化） 相談援助における個人情報の保護 相談援助における情報通信技術（ICT）の活用 事例研究・事例分析（事例研究の目的と意義・方法と留意点、事例分析の目的と意義・事例分析の方法と留意点） 相談援助の実際 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第7巻」（配本テキスト） 「相談援助の理論と方法Ⅱ」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	福祉サービス組織と経営	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）を理解する。 ・ 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・ 福祉サービスの経営と管理 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスに係る組織や団体 ・ 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 ・ 福祉サービス提供組織の経営と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉サービスにおける組織と経営（福祉サービスにおける組織） 2 福祉サービスにおける組織と経営（経営、福祉サービスと制度） 3 福祉サービスにかかわる組織や団体（法人とは、社会福祉法人） 4 福祉サービスにかかわる組織や団体（特定非営利活動法人） 5 福祉サービスにかかわる組織や団体（その他の組織や団体） 6 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（戦略、事業計画、組織） 7 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（管理運営の基礎理論、集団の力学に関する基礎理論） 8 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（リーダーシップに関する基礎理論） 9 福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理（サービスマネジメント、サービスの質の評価） 10 福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理（苦情対応とリスクマネジメント、サービスのあり方の方向性） 11 福祉サービスの管理運営の方法(2) 人事管理と労務管理（人事・労務管理） 12 福祉サービスの管理運営の方法(2) 人事管理と労務管理（人材育成） 13 福祉サービスの管理運営の方法(3) 会計管理 14 福祉サービスの管理運営の方法(3) 財務管理 15 福祉サービスの管理運営の方法(4) 情報管理 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第11巻」（配本テキスト） 「福祉サービスの組織と経営」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	乳児院 現施設長 ※上記の経験のある乳児院施設長により、福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）を理解するように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保 ・ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。割と実際 ・ 生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際 ・ 福祉事務所の役割と実際 ・ 自立支援プログラムの意義と実際 ・ 低所得者対策 ・ 低所得者へ住宅政策 ・ ホームレス対策 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 ・ 生活保護制度 ・ 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 ・ 生活保護制度における専門職の役割制度に係る他の法制度について理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公的扶助の概念（公的扶助の概念と範囲、公的扶助の意義と役割） 2 貧困・低所得者問題と社会的排除（貧困・低所得とは何か、貧困と社会的排除） 3 貧困・低所得者問題と社会的排除（貧困・低所得者問題の現代的課題） 4 公的扶助制度の歴史（海外の歴史、日本の歴史、貧困・低所得者対策の近年の動向） 5 生活保護制度の仕組み（生活保護法の目的と原理・原則、保護の種類と内容および方法、保護施設） 6 生活保護制度の仕組み（被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟、生活保護の財源・予算） 7 最低生活保障水準と生活保護基準（最低生活保障水準の考え方、生活保護基準の考え方） 8 最低生活保障水準と生活保護基準（生活保護基準額の実際、最低生活保障水準の実際） 9 生活保護の動向（被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向） 10 生活保護の動向（医療扶助・介護扶助の動向） 11 低所得者対策の概要（生活福祉資金貸付制度、社会手当制度） 12 低所得者対策の概要（ホームレス対策、その他の低所得者対策） 13 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体（国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割、福祉事務所専門職の役割） 14 貧困・低所得者に対する相談援助活動（生活保護制度における相談援助活動、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際） 15 貧困・低所得者に対する相談援助活動（他機関・他職種との連携・協働） 16 生活保護における自立支援（自立とは何か、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第16巻」（配本テキスト） 「低所得者に対する支援と生活保護制度」（配本テキスト） 「公的扶助論」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保健医療サービス	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。 ・ 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療保険制度 ・ 診療報酬 ・ 保健医療サービスの概要 ・ 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 ・ 保健医療サービス関係者との連携と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 （保健医療サービスとその構成要素（ひと・もの・かね・情報）） 2 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 （戦後の保健医療サービスの整備・拡充） 3 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 （医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題） 4 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 （医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士） 5 保健医療サービスを提供する施設とシステム（医療法による医療施設の機能・類型） 6 保健医療サービスを提供する施設とシステム （保健医療政策による医療施設の機能・類型） 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム （医療報酬における医療施設の機能・類型） 8 保健医療サービスを提供する施設とシステム （介護保険法における施設等の機能・類型、在宅支援のシステム） 9 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 （医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み） 10 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 （ミクロのソーシャルワーク、ミクロからメゾへのソーシャルワーク、メゾからマクロへのソーシャルワーク） 11 保健医療サービスの専門職の役割 （保健医療サービス専門職の概観、保健医療サービス専門職の基本的姿勢、） 12 保健医療サービスの専門職の役割 （保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際） 13 保健医療サービスの提供と経済的保障 （医療保険制度と診療報酬制度の概要、介護保険制度と介護報酬の概要、自立支援医療、公費負担医療制度の概要——身体障害者の認定、対象者と自己負担） 14 保健医療サービスの連携の理論と実践——専門職との連携 （保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体、保健医療の専門職との連携の実際） 15 保健医療サービスの連携の理論と実践——地域の社会資源との連携 （地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識、地域ケアネットワークの実際） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第17巻」（配本テキスト） 「保健医療サービス」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	就労支援サービス	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ・ 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ・ 就労支援分野との連携について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用・就労の動向と労働施策の概要 ・ 就労支援制度の概要 ・ 就労支援に係る組織、団体の役割と実際 ・ 就労支援に係る専門職の役割と実際 ・ 就労支援分野との連携と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 働くことの意味と社会福祉士の役割 2 現代の労働を取り巻く現状（労働市場の変化、労働に関する法律と制度） 3 障害者と就労支援（福祉と雇用の融合、障害者福祉施策における就労支援、障害者雇用施策における就労支援） 4 障害者と就労支援（就労支援にかかる専門職の役割、民間の取組み、諸外国の取組み） 5 低所得者と就労支援（支援の対象像、低所得者の就労の現状、就労支援制度） 6 低所得者と就労支援（支組織・団体の役割、専門職の役割、今後の展望） 7 連携・ネットワーキング（就労支援とケアマネジメント、就労支援とネットワーク、連携・ネットワーキングの実際） 8 さまざまな働き方の支援 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第18巻」（配本テキスト） 「就労支援サービス」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	権利擁護と成年後見制度	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。 ・ 成年後見制度の実際について理解する。 ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。) ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業 ・ 成年後見制度利用支援事業 ・ 権利養護に係る組織、団体の役割と実際 ・ 権利擁護活動の実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の活動と法（相談援助活動において想定される法律問題） 2 相談援助の活動と法（日本国憲法の理解、行政法の理解、民法の理解、社会福祉関連法の理解） 3 成年後見制度（成年後見の概要、保佐の概要、補助の概要、申立ての流れ） 4 成年後見制度（任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の最近の動向と課題） 5 日常生活自立支援事業（日常生活自立支援事業の概要） 6 日常生活自立支援事業（日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携） 7 成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用） 8 権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所の役割、法務局の役割、市町村の役割） 9 権利擁護にかかわる組織・団体（社会福祉協議会等の役割、児童相談所の役割） 10 権利擁護にかかわる専門職の役割（弁護士の役割、司法書士の役割、公証人の役割） 11 権利擁護にかかわる専門職の役割（医師の役割、社会福祉士の活動の実際） 12 成年後見活動の実際（認知症を有する者への支援の実際、消費者被害を受けた者への対応の実際） 13 成年後見活動の実際（障害児・者への支援の実際、市町村長申立てのケースへの対応の実際） 14 権利擁護活動の実際（被虐待児への対応の実際、高齢者虐待への対応の実際、アルコール等依存症への対応の実際） 15 権利擁護活動の実際（非行少年への対応の実際、ホームレスの人への対応の実際、多問題重複ケースへの対応の実際） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第19巻」（配本テキスト） 「権利擁護と成年後見制度」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	更生保護制度	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 ・ 更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 ・ 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更生保護制度の概要 ・ 更生保護制度の担い手 ・ 更生保護制度における関係機関・団体との連携 ・ 医療観察制度の概要 ・ 更生保護における近年の動向と課題 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 更生保護制度の概要（刑事司法のなかの更生保護、仮釈放等、保護観察第、生活環境の調整、更生緊急保護、） 2 更生保護制度の概要（更生保護における犯罪被害者等施策、恩赦、犯罪予防活動） 3 更生保護制度の担い手（保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者） 4 更生保護制度における関係機関・団体との連携（裁判所とのかかわり、検察庁とのかかわり、矯正施設とのかかわり、） 5 更生保護制度における関係機関・団体との連携（公共職業安定所・福祉事務所等とのかかわり） 6 医療観察制度の概要（医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、） 7 医療観察制度の概要（生活環境の調整、地域社会における処遇、関係機関等との連携） 8 更生保護の実際と今後の展望（保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際、更生保護の今後の展望） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第20巻」（配本テキスト） 「更生保護制度」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助実習指導	授業区分	演習	単位数	3
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助実習の意義について理解する。 ・ 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解し実践的な技術等を体得する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行う ① 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ② 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ④ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。） ⑤ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） ⑦ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ⑨ 巡回指導 ⑩ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ⑪ 実習の評価全体総括会 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助実習	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ・ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ・ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ・ 当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	総合演習 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	音楽実技 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	保育の現場で活用できる、季節・行事・生活の歌を中心に弾き歌いができるようにするとともに、初見演奏、コードを使用しての伴奏づけの技術を高める。				
授業概要	各個人の基礎技術を確認しながら、応用へつなげていく。				
授 業 計 画	(前期) ・楽典 ・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練(総合) 2.幼児の歌(ソルフェージュ) ・ソルフェージュの基礎 ・弾き歌いの応用 3.試験曲の決定	(後期) ・楽典 ・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練(総合) 2.幼児の歌 ・弾き語りの表現 3.試験曲の決定			
成績評価 基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い)				
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」(配本テキスト)の中から各自のレベルに応じた楽譜 「こどもと音楽表現」(配本テキスト) ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択 ・ソルフェージュの基礎力を高めるための楽譜を選択				
実務経験 がある教 員による授 業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ演奏、ソルフェージュ、弾き語り等の演習授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のレベルに合わせた個人指導によりピアノの演奏技術を高める。 ・テキストと「幼児の歌」を中心にした総合レッスン。 				
授業計画	(前期) 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行(応用) 5.試験曲の決定		(後期) 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い) 				
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」(配本テキスト)の中から、各自のレベルに応じた楽譜 「こどもと音楽表現」(配本テキスト)の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅲ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	テーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅲ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 〈ピアノ実技〉・プルグミュラー (no.1～no.13) 〈ソルフェージュ〉・プルグミュラー (コールコーブニゲン) 〈弾き歌い〉・愛唱歌				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のレベルに合わせた個人指導によりピアノの演奏技術を高める。 ・テキストと「幼児の歌」を中心にした総合レッスン。 				
授業計画	(前期) 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行(応用) 5.試験曲の決定		(後期) 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い) 				
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」(配本テキスト)の中から、各自のレベルに応じた楽譜 プルグミュラー／コールコーブニゲン 「こどもと音楽表現」(配本テキスト)の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅳ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題研究、作品制作とは 2. テーマ選択・設定① 3. テーマ選択・設定② 4. 調査法 5. 創造の方法 6. 実習作業① 7. 実習作業② 8. 発表① 9. 発表② 				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅳ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 〈ピアノ実技〉・ブルグミュラー（no.14～no.25） 〈ソルフェージュ〉・ブルグミュラー（コールコーブニゲン） 〈弾き歌い〉・愛唱歌				
授業計画	（前期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行（応用） 5.試験曲の決定		（後期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲（①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い） 				
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」（配本テキスト）の中から、各自のレベルに応じた楽譜 プルグミュラー／コールコーブニゲン 「こどもと音楽表現」（配本テキスト）の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師（5年） ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。				

授業概要（シラバス）

こども未来学科

科目名	長期実習	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	<p>社会福祉施設等の実習を体験することにより、利用者とのコミュニケーションをどのようにすべきか、また、日々の関わりの中で何に気を付けて行動すべきかなどを考察する。 利用者との関わりを通して、利用者の気持ちを理解し、より良い介助の仕方を学ぶ。 社会福祉士になる意識をもって積極的に実習に臨み、社会福祉士としての意識を高めて欲しい。</p>				
授業概要	<p>施設実習(老人福祉法による施設・介護保険法による施設・障害者総合支援法による施設・児童福祉法による施設) 施設等の種類については選択実習となる。</p>				
授業計画	<p>長期実習 実習期間 10月～11月初め（4週間） 実習内容 実習を通して、社会福祉士に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。</p>				
成績評価基準	<p>実習園での成績評価を基に総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「保育実習指導」(配本テキスト) 長期実習簿(配本) その他資料を準備する。</p>				